

18歳から29歳までの東近江市民対象  
選挙に関する意識調査結果報告書  
(総括抜粋版)

令和6年4月

東近江市選挙管理委員会  
東近江市明るい選挙推進協議会

## 総括

### (1) 回答者の属性

- ・ 高校生が6パーセント、大学生が22パーセント、社会人が68パーセントで、回答者は社会人の割合が多くなっています。
- ・ 18歳から20歳までが22パーセント、21歳から23歳までが21パーセント、24歳から26歳までが27パーセント、27歳から30歳までが30パーセントで、年齢が高いほど多くの回答を得ています。

### (2) 投票の頻度及び投票をしない理由

- ・ 48パーセントが半分程度又はあまり投票をしていないと回答しています。
- ・ 半分程度又はあまり投票をしていない人のうち、49パーセントが「どの候補者が当選しても社会や政治の変化を実感できない」こと、32パーセントが「候補者の考えがよく分からない」ことを投票をしない理由に挙げています。

### (3) 選挙啓発

- ・ 令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙について、選挙があることを知っていた人は56パーセントであり、選挙の認知率を向上させる必要があります。
- ・ 選挙があることを知っていた人のうち、63パーセントが自宅に届いた選挙のお知らせ（投票所入場整理券）で、33パーセントが掲示場に貼られた候補者のポスターで、31パーセントが親（家族）から聞いて、選挙があることを知ったと回答しています。
- ・ 認知の効果が高い選挙のお知らせ（投票所入場整理券）で、選挙に関する情報を適切かつ効果的に伝える必要があります。
- ・ 選挙の啓発の方法について、53パーセントが「SNS等のインターネット広告」が効果があると回答しています。
- ・ 滋賀県議会議員一般選挙でYouTubeの広告を行いました。SNS等を活用した広告を積極的に行う必要があります。

### (4) 投票の動機

- ・ 投票の動機になることについて、55パーセントが「候補者の考えが分かる」こと、44パーセントが「現職の候補者が前回選挙の当選後にどのような活動をしたかが分かる」こと、32パーセントが「学校や職場で投票ができる」こと、26

パーセントが「市内の店舗の商品を割引価格で購入することができる」こと及び「選挙の争点分かる」ことを挙げています。

- ・候補者の考えが掲載された選挙公報の認知率の向上のほか、候補者の考えが分かる情報が若年層の選挙人に届く手法を検討する必要があります。

#### (5) 特定の選挙における投票の実績等

- ・46パーセントが令和5年4月に執行された滋賀県議会議員一般選挙で投票をしたと回答しています。
- ・当該選挙で投票をした候補者を選んだ理由について、45パーセントが「なんとなくその人がいいと思った」、27パーセントが「その候補者が地元の発展に貢献してくれると思った」、26パーセントが「その候補者の政策、主義、主張に賛同した」ことを挙げています。
- ・一方で、「地元の人や友人などからその候補者に投票するよう依頼があった」こと（1.8パーセント）や「職場でその候補者に投票するよう依頼があった」こと（0.9パーセント）を理由に挙げる人は少なく、候補者の考えを知り、投票をする人を自身の判断で選びたいという若年層の選挙に対する考え方が読み取れます。

#### (6) 候補者の考えに対するとらえ方

- ・候補者の考えを知るために、選挙のたびに「いつも行動をしている」人は6パーセント、「ときどき行動をしている」人は31パーセント、「ほとんど行動をしたことがない」人は63パーセントでした。
- ・候補者の考えを知るために、選挙のたびに「いつも」又は「ときどき」行動をしている人のうち、候補者の考えを知ろうとした手段について、インターネットと答えた人が50パーセント、選挙公報と答えた人が41パーセントでした。
- ・候補者の考え知ろうとしたことがほとんどない人は、その理由について、49パーセントが「候補者の考えを知る必要があると思っているものの、意識的に時間をかけて調べるまでには至らない」、20パーセントが「候補者の考えを調べても、選挙の争点等が分からない」、16パーセントが「候補者の考えを調べる方法が分からない」ことを挙げています。
- ・候補者の考えを知り、投票をする人を自身の判断で選びたいと思っているものの、①忙しいため自ら積極的に時間をかけて調べることはしていない、②調べる方法が分からない、③調べても分からないという課題があることが分かります。

#### (7) 選挙における親（家族）との関わり

- ・若年層のいる親（家族）の投票の頻度について、「毎回投票をしている」人は54パーセント、「ほとんど投票をしている」人は23パーセントでした。
- ・若年層の選挙人の投票率とその親（家族）の投票率は比例する傾向にあり、強い相関関係があります。
- ・親（家族）から投票に行くように言われた頻度について、「いつもあった」人は34パーセント、「ときどきあった」人は37パーセントでした。
- ・若年層の選挙人の投票の頻度とその親（家族）からの声掛けの頻度は比例する傾向にあり、強い相関関係があります。
- ・親（家族）と政治や選挙のことについて話す頻度について、「よく話したことがある」人は8パーセント、「ときどき話したことがある」人は58パーセントでした。
- ・若年層の選挙人の投票の頻度と若年層の選挙人がその親（家族）と選挙や政治のことを話す頻度は比例する傾向にあり、一定の相関関係があります。
- ・親（家族）の選挙に対する意識や行動が、若年層の選挙人の選挙に対する考え方に大きな影響を与えることを周知し、若年層のいる親（家族）の選挙に対する意識の向上を図る必要があります。

#### (8) 参加したいと思う取組

- ・参加したいと思う政治や選挙に関する取組について、52パーセントが「特に参加したいと思うものはない」、22パーセントが「学校で選挙の仕組みを学ぶ出前講座」、17パーセントが「前回の選挙で当選した首長又は議員による成果報告会」、13パーセントが「若者グループによる政治や選挙に関するサークル活動」となりました。

#### (9) 選挙制度に対する認知度

- ・期日前投票制度を知っている人は93パーセントでした。
- ・住んでいる地域にかかわらず、市内のいずれの期日前投票所でも投票ができることを知っている人は64パーセントでした。

#### (10) 支持政党等

- ・支持している政党がある人は15パーセントでした。
- ・支持している政党がある人のうち、強くその政党を支持している人は21パーセントでした。